

2025 熊本アイランド協会市民講座お知らせ

テーマ：「アイランドの心の故郷（ふるさと）」

参加費：会員無料/非会員500円（資料代含む）

会場：お菓子の香梅帯山店ドウ・アート・スペース（熊本市中央区帯山7-6-84 国体道路沿い）

時間：午後2:00～午後3:30

1845～1849年にかけて起ったジャガイモの大飢餓と疫病によってアイランドの人々は疲弊し、やがて祖国を離れ、多くは新天地を求めてアメリカに渡った。その移民船の船底に若きラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の姿があった。彼が大西洋を越えて渡米したのは1869年であったが、当時アメリカは南北戦争が終わり、混沌のうちにも近代化を遂げて行こうとする矢先であった。

それ以後ハーンはシンシナティで8年、ニューオーリンズで10年、西印度諸島（カリブ）のマルティニク島で2年の合計20年にわたってジャーナリストとして活躍した。その間生まれ故郷のギリシャと青い海、別れたままの臉の母を想い、幼少年期に育ったアイランドのトラモアやダブリンの美しい海辺の風景を片時も忘れることはなかった。

アイランドの人々のルーツは広大なヨーロッパ文化・文明の根源のひとつをなすケルト民族である。彼らは歴史的に戦よりも平和な文化・文明を好み、これを継承 / 伝承していく文化力に優れていた。ハーンはこの血を受け継ぎ、文筆活動においては詩的で美しい散文にのせて多くの記事や作品を残した。そこには民族の魂が込められた民話や説話、そして俚諺（諺）などへの深い関心があったのである。

本年度（2025年）秋からはNHKによる連続テレビ小説のドラマ「ばけばけ」が始まる。これを背景にセツ夫人に焦点が当てられ、そこから見えるハーンの姿が松江や熊本を舞台に生き活きと描き出されてくることでしょう。

この市民講座では熊本に3年間いたハーンの心に触れ、遠くアイランドひいてはケルトの人々の心の故郷に思いを馳せてみたいと思います。皆様ぜひお越し下さい。

市民講座（内容）

- 令和7年5月24日（土）「アイランドの心の故郷＝ケルトの音楽＝」
本間康夫（元崇城大学芸術学部教授）
- 令和7年6月28日（土）「アイランドの心の故郷＝妖精たちの話＝」（仮題）
高木朝子（熊本高専熊本キャンパス准教授）
- 令和7年8月23日（土）「アメリカからアイランドへ」（仮題）
八幡雅彦（別府大学短期大学部名誉教授）
- 令和7年9月27日（土）「ハーンの妻セツと『ばけばけ』」
西川盛雄（熊本大学名誉教授）
- 令和7年10月25日（土）「ハーンが見た日本の幽霊たち」
池田志郎（英米文学研究者）
- 令和7年12月6日（土）「ハーン作品の朗読とセツ夫人の心意気」（仮題）
石路の会（代表：齊藤幸子）